

編 集 後 記

「2003年2月1日新システム運用開始」幾度と耳にし越えてきたシステム更新，利用者の皆様に現状のままシステムの移行すら気づかせない，とまではいかないまでも前回（余りにもおソマツ）があるだけにととてもスムーズな移行でスタッフ一同ほっとしている（当たり前という事を強く実感）。

昭和42年4月1日HIPAC103（日立）運用開始から始まった計算センター（今は総合情報処理センター）と私，OKITAC4300C,OKITAC50/40（沖電気），ACOS850,ACOS930,UP4800/680を主とした機能分散型システム（日本電気），そして今回マルチメディア及びネットワーク重視の大容量サーバ群システム（ネットワンシステムズ）と，6回もの更新とお付き合いさせて頂いた。毎回最新のコンピュータが入るので幸せな環境下に居るのだが，私の技術では使い切れないまま4年が経ってしまう（もったいないを実感）。

重たい真っ黒い紙テープにパンチアウトされたデータを，読んで切り貼りしていたなんて，今考えると驚異そのもの，誰も彼もネットワークからダイレクトで情報のやり取りをする現在では，「ウソ」と言われても仕方ないことでしょうね（年月を実感）。

思えば，それぞれのその時々にも身近も含めいろいろなこと（一言で？）があり，私の人生の半分はセンターと一緒にかな？なんて，少々自負しつつ関って下さった全ての人達そしてシステムに感謝しているこの頃，この編集後記執筆で再確認している次第です（また新しいエネルギーを実感）。

平成16年法人化になる大学の当センターの更新はどんな風になるのだろうか？今一度「計算機システム更新」が経験できるのだろうか？「いつ更新したの？」と聞かれるぐらいスムーズに移行できた暁には，また一つ幸せが増えたと思うことにしましょうか？（青木）

弘前大学総合情報処理センター
教育広報専門委員会

小野寺 進（人 文 学 部）
小 山 智 史（教 育 学 部）
須 田 俊 宏（医 学 部）
松 木 明 知（医 学 部 附 属 病 院）
D.N. ネンチェフ（理 工 学 部）
角 野 三 好（農 学 生 命 科 学 部）
岡 田 潔（附 属 図 書 館）
丹 波 澄 雄（総 合 情 報 処 理 セ ン タ ー）